

**【演題】** 災害実働チーム、アクションカードを利用した当院の災害対策への取り組み

東京女子医科大学 臨床工学部 1)

東京女子医科大学 血液浄化療法科 2)

東京女子医科大学 看護部 3)

石井貴文<sup>1)</sup> 岡野一祥<sup>2)</sup> 小坂邦江<sup>3)</sup> 村上 淳<sup>1)</sup> 木全直樹<sup>2)</sup> 秋葉 隆<sup>2)</sup>

### **【緒言】**

災害対応を行うにあたり最も重要となるのは指揮命令系統の確立と情報伝達である。当院ではこれを確実にを行うために災害実働チームが組織されている。また発災時に在院する職員で確実な災害対応を行うためにアクションカードを使用することとしている。

### **【目的】**

院内総合防災訓練時に、災害実働チームを中心として、透析室の被害状況を迅速に病院災害対策本部へ報告できるようにする。

### **【方法】**

院内で統一された被害報告書をもとに作成されたアクションカードおよび情報の集約方法の問題点を、机上訓練を行って洗い出し改訂した。

### **【結果】**

アクションカードの情報収集項目を透析室に適した項目量へ改訂した。情報集約方法を被害件数などリアルタイムでホワイトボードへ記載するものと、被害場所など予め作成しておく事ができるものへ分けた。

### **【考察】**

アクションカードから被害報告に不必要な内容がなくなったため情報収集が行いやすくなった。情報集約時にホワイトボードへ記載する内容が減ったため、迅速な被害状況の集計、報告へ繋がると考えられた。

### **【結語】**

災害発生時迅速に情報を伝達するには指揮命令系統、情報伝達方法・経路の把握が必要であり、日常より研修、訓練等の事前準備が必要である。